

泉殿いづみどのといふは妙光寺めうくわうじと般若寺はんにやじとの間にあり。むかし烏羽院とぼのあんの御子かくせい覚性はふしん法親王わう、此所こゝに御室おむろをいとなみ住せ給ふなり。

山槐記 秋の彼岸ひがんに故宮こきゆうのために仏事ぶつじせんとて泉殿いづみどのへまゐりしに、

長尾ながをの松原まつばらのまへをすぐとて

御集 ありしよの松のみどりの気色きしきまで憂身うれしは頼たのむ陰かげなかりけり 守覚法親王

御前にまゐりつきて

同 はかなくて消きにしあとをきて見れば露所つゆどころせき庭にわの草くさむら 同